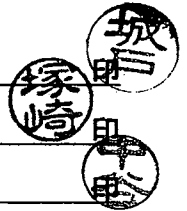


## 博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2244号  
学籍番号 0927022001  
氏名 今磯 純子

### 論文審査員

主査(教授) 城戸 照彦  
副査(教授) 塚崎 恵子  
副査(教授) 中谷 壽男



論文題名 Differences in Home-based Family Caregiving Appraisal for Caregivers of the Elderly  
in Rural and Urban Japanese Communities

(高齢者への家族介護者の在宅介護評価に関する地域差の検討)

### 論文審査結果

#### 【論文内容の要旨】

過疎地域と都市部において、高齢者を在宅で介護している家族介護者の否定面と肯定面の在宅介護評価、および在宅介護評価の関連要因の違いを明確にすることを目的とした関連検証型の量的な横断研究である。在宅介護評価の否定面は Zarit 介護負担尺度、肯定面は肯定的評価尺度を用いて調査した。対象者は、過疎地域もしくは都市部に暮らし、訪問看護を利用している要介護3以上の高齢者と同居している主介護者とした。過疎地域は過疎地域自立促進特別措置法による人口減少率を満たす地域、都市部は地方自治法による人口50万人以上の政令指定都市と定義し、両地域の訪問看護事業所等を WAM Net から抽出し対象者の紹介依頼をした。91施設から紹介された365人の主介護者のうち、回収数は219人(60.0%)であり、そのうち有効回答数は196人(89.5%)で、過疎地域106人、都市部90人だった。t検定、 $\chi^2$ 検定、Mann-Whitney U検定、スピアマン順位相関、ステップワイズ重回帰分析を用いて、在宅介護評価の否定面と肯定面、およびそれぞれの関連要因の地域差について分析した。その結果、介護負担感と介護肯定感には地域差はみられなかった。介護負担感の関連要因の一つに居住地域が挙げられた。過疎地域と都市部別にみると、介護負担感の関連要因は異なっていた。介護肯定感の関連要因として両地域において義務感が挙げられたが、その他の要因は異なっていた。以上の結果から、過疎地域と都市部における地域環境の違いを考慮した支援の必要性が示唆された。

#### 【審査結果の要旨】

過疎地域と都市部の定義を明確にし、両地域の介護者の在宅介護評価の関連要因を分析した本研究は、国内外において独創的な研究であり、貴重な知見を示した。公開審査では、過疎地域と都市部の定義と対象者の設定、介護負担感と介護肯定感の関係、分析結果の妥当性、研究成果の海外への貢献等の今後の研究の発展について質疑され、適切な応答がなされた。

以上より、本研究は博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。